

2024年4月6日  
岡部昌平

第346回山口西田読書会のプロトコル（2024年3月16日開催）

【テキスト】

第四卷「場所」の「五」第4段落、288頁の3行目「述語が主語を包むといふ考から云えば」から288頁の7行目「矛盾的統一の述語面に於てはじめて述語面が独立となるのである」までを再読。

【キーセンテンス】

矛盾的統一の述語面に於てはじめて述語面が独立となるのである。

【問い】

「矛盾的統一の述語面に於てはじめて述語面が独立となるのである」の「独立」とはどのようなものか。働くものが考えられ、判断の矛盾を意識するとき、その述語面が「個」になると考えてよいか。